令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【大砂土学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	本校は、「全国学力・学習状況調査」や「さいたま市学習状況調査」の結果において、ほとんどの項目で平均値を上回っていることから、学びの基盤となる基礎学力が身に付いていることが分かる。しかし、国語「主語と述語の関係を理解する」、社会「2つの資料を比較しながら変化について読み取ることができる」の項目では課題が見られた。また、「自分の考えを相手に伝える」「自分の気持ちを上手に表現する」ことにも課題が見られる。そのため、系統性を意識した学習内容の工夫や各教科の学習において、「伝え合い」の活動を充実させていく必要がある。さらには、学校経営の柱として児童が進んで読書に取り組む機会が減少していることから読書活動の充実を掲げ取り組んでいる。
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	学校課題研究における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進と習熟度別など、個に応じたデジタルコンテンツの有効な活用方法を共有し、授業改善を図る。また、年3回の研究授業を通し、「大砂土小授業モデル」や「自分の考えが伝わるように表現すること」を意識した話合い活動、根拠を明確にして自分の考えを伝え合う」ICT活用を授業の中に積極的に取り入れ、思考ツールを用いた授業実践を行う。読書活動に関しては、図書部を中心に、朝読書の充実や夏休みの貸し出し冊数を増やしたり、保護者向け図書館利用の期間を設定したりして、本に親しむ機会を増やしていく。さらに、指導主事等を招聘したり、「学力向上カウンセリング学校研修」などで助言を受けたりし、本校の課題を把握しながら、授業改善を図る。 【通年・研究授業　年3回・朝読書　週1回・指導主事等の招聘　年3回・学力向上カウンセリング学校研修　年1回】

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	令和8年度の結果において、本校では国語・算数ともに、すべての項目で全国平均及び市の平均を上回っていることから、基本的な学力が身に付いていることが分かる。しかし、国語では「漢字を使って書き直す」「文章を読んで考え、自分の経験と結び付けてまとめて書く」、算数では「数を四捨五入して、概数で表す」「単位量当たりの大きさを求める」項目で全国平均と比較しても同程度の数値であり、あまり顕著な結果が見られなかった。また、国語「話や文章の種類とその特徴について理解する」「文章を読んで自分の考えをまとめる」「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる」項目では、無回答率が高い結果となった。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	本校の児童は、学びの基盤となる基礎学力が着実に身に付いていることが分かる。しかし、国語では、文章を読んで自分の考えをまとめることに課題があることから、基礎的な知識はあっても、自分の考えをもち、文章や言葉で表現することが苦手であることが分かる。また、算数では単位量当たりについての理解に課題がある。基礎的な知識を使った問題については、普段のテストでも高い数値が見られるが、応用問題や身近な生活に結び付きにくい問題に対しては、既習内容をどう生かすかなどの考え方や判断力に課題が見られる。このことから、本校の児童の実態として、既習の知識を応用して考える力を養う必要があることが分かる。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	学校課題研究を軸に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進を行うことができている。1学期には指導者を招聘し、研究授業を実施した。全教員での協議会の場を設定するなど、個に応じたデジタルコンテンツの有効的な活用等を共有するとともに、昨年度までに作成した「大砂土小授業モデル」を普段の授業に取り入れることができた。また、読書活動についても図書部を中心に朝読書の呼び掛け、校長や図書ボランティアによる読み聞かせを各学年ごとに月1回、実施することできた。更に、児童への貸出冊数を増やしたり、個人面談期間に合わせて保護者に本を貸し出す機会を設定したりして、児童や保護者が本に親しむ機会を増やすことができた。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	見直しなし＋継続して今年度の学力向上策を実施していく	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）